

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 宇治山田高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○学習活動および部活動の両面で充実感が得られ、進路希望を実現する学校 ○社会人として必要な知識や教養を習得し、人間力を高める学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自分のやるべきことを自覚し、目標実現のため自ら行動している。 ○身だしなみが端正であり、礼儀正しい。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像実現のため、積極的に生徒に関わり行動している。 ○「やりがい」を感じて職務を遂行している。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		《生徒》 ほとんどの生徒が大学進学を希望しており、その実現のため学習活動の充実を期待している。また、部活動にも熱心に参加する生徒が多く、学習活動との両立を望んでいる。 《保護者》 上記生徒の期待に加えて、学校からの情報提供を求めている。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 《家庭》 学校からの情報提供 《地域》 学校の活性化 《同窓会》 学校の活性化、生徒の活躍	連携する相手への要望・期待 《家庭》 本校教育方針・教育活動への理解と協力 《地域》 教育活動への理解と協力 《同窓会》 教育活動への理解と協力
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・より魅力ある学校づくりを推進し、伝統校としてブランド力を高めていってほしい。</li> <li>・教職員の休暇取得など、働きやすき環境の整備を進めていく必要がある。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は学習活動や部活動に熱心に取り組んでいるが、より一層意欲の向上を図っていく必要がある。</li> <li>・生徒は学校の規律を守り、きちんとした学校生活を送っている。遅刻者数はここ数年で大きく減少し、基本的な生活習慣は確立されている。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期選抜を実施して数年経過し、確実に成果を上げている。今後も検証と工夫を継続していく。</li> <li>・学級数減に伴い新しい体制づくりが必要である。</li> <li>・教職員の総勤務時間の縮減を図る取組を推進していく。</li> </ul>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の希望進路実現に向け積極的に生徒に関わり、県内の国公立大学を中心として、国公立大学への合格者数80人以上を目指す。</li> <li>・生徒が自らの夢や希望を持ち、その実現に向け望ましい職業観や勤労観を養えるよう、キャリア教育を推進する。</li> <li>・生活面の安定が学力向上をはじめとする学校生活充実のための大きな要素であることから、生徒が規律ある生活を送ることができるよう支援する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい授業を目標に、授業の改善や教科指導力の向上に努める。</li> <li>・生徒が安心して学校生活を送ることができよう取り組む。</li> <li>・地域住民や地元小学校との交流を図る。</li> <li>・教職員が「やりがい」を感じることができる職場環境づくりに努める。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業の改善と充実	授業力の向上に係る指導方法の改善と教材の精選 【活動指標】教員相互の授業見学の推進 【成果指標】生徒の授業満足度 対前年度比5%増		◎
学習と部活動の両立	夏季課外と部活動の棲み分け 【活動指標】優先時間帯の設定を継続して実施		※
キャリア教育の充実	進路実現に向かう意識を向上させる 【活動指標】定期的に卒業生を招聘し、在校生の進路実現に係る情報交換会を実施 【活動指標】保護者への積極的な情報提供の機会の設定		※
生活習慣の確立	規則正しい学校生活を送れるよう、生徒への働きかけを行う 【活動指標】毎朝の校門指導 【成果指標】遅刻生徒数 対前年度比5%減		※

#### 改善課題

##### (1) 授業の改善と充実

###### 授業力の向上に係る指導方法の改善と教材の精選

【成果指標】である生徒の授業満足度については、満足度の割合が81%。昨年度の満足度より4ポイント減少。次年度、新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、主体的で深い学びの実現に向け、より一層授業力の向上を図る取組を進めていきたい。

##### (2) 学習と部活動の両立

###### 夏季課外と部活動の棲み分け

本年度も夏季休業中の1・2年生の課外授業(1期)において、午前中はクラブ活動、午後から課外授業を実施。次年度においても学習活動とクラブ活動の両立を目指す本校にあって取組を推進していきたい。

##### (3) キャリア教育の充実

###### 進路実現に向かう意識を向上させる

本年度、定期的に卒業生を招聘し、在校生の進路実現に係る情報交換の機会や保護者への積極的な情報提供の機会を設定。次年度も継続して実施していきたい。

##### (4) 生活習慣の確立

###### 規則正しい学校生活を送れるよう、生徒への働きかけを行う

【成果指標】である「遅刻生徒数 対前年度比5%減」については、前年度比11.1%の減少。次年度以降も継続して取組を進めていきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
支え合い、補い合う組織づくり	チーム学校の構築 【活動指標】分掌間、学年間の情報共有の促進		
働きやすい職場環境づくり	教職員の総勤務時間の縮減 【活動指標】教職員の休暇取得を促進し、総勤務時間の縮減につなげる 【活動指標】教職員がより計画的に業務を行うことができるよう、月に1日の定時退校日を設定する。 1週間(土日を含む)の内、生徒・部活動顧問とともに休養する日を1日程度設定する。 【活動指標】休暇取得の促進、定時退校日の設定、部活動休養日の設定を通して、総勤務時間の縮減に努める。 【成果指標】教職員の休暇取得前年度より1日増 【成果指標】定時退校日等に定時退校した教職員の割合 月平均 90%以上 【成果指標】1週間(土日を含む)の内、生徒・部活動顧問とともに休養する日を1日程度設定 月平均 95%以上 【成果指標】教職員の総勤務時間平均1時間減(年度末平均時間と年度初め(4月・5月平均)と比較)		◎
地域・地元小学校との連携	地域及び地元小学校と連携した取組の推進 【活動指標】地元小学校と連携した取組 合同避難訓練(地域含む)等		

改善課題

(1) 支え合い、補い合う組織づくり

チーム学校の構築

本年度、「支え合い、補い合い、助け合う」職場づくりの具現化を図るため、課題に係る管理職と関係教職員間及び分掌間での情報共有の徹底、SCやSSWなどの専門家を招いてのケース会議の開催など、チーム学校の必要性についての認識を深める取組を継続して実施。次年度以降、より一層体制の構築を図っていきたい。

(2) 働きやすい職場環境づくり

教職員の総勤務時間の縮減

【活動指標】の月に1回の定時退校日の設定、クラブ活動において1週間(土日を含む)の内、生徒・部

活動顧問とともに休養する日を1日程度設定する取組については概ね達成。

【成果指標】の教職員の休暇取得前年度より1日増について、現在取組を進めており、結果については3月末に判明。「定時退校日等に定時退校した教職員の割合 月平均 90%以上」について、生徒の安全確保上などで定時退校日に退校できなかった教職員は、当該月内に自ら定時退校日を設け、取組状況を管理職に報告する工夫を行った結果、毎月100%の達成率。

「1週間(土日を含む)の内、生徒・部活動顧問とともに休養する日を1日程度設定 月平均 95%以上」についても概ね達成。

「教職員の総勤務時間平均1時間減(年度末平均時間と年度初め(4月・5月平均)と比較)」については現在取り組んでおり、結果については4月上旬に判明。

次年度以降、高大接続改革に係る取組の業務負担が想定されるが、会議時間の短縮に係る取組などにより、総勤務時間の縮減に向けての取組を一層推進していきたい。

### (3) 地域・地元小学校との連携

#### 地域及び地元小学校と連携した取組の推進

近接の早修小学校と9月に地震を想定した避難訓練を合同で実施。この避難訓練には、地元自治会も参加。

早修小学校からの依頼により、児童の走力向上に向けた指導を本校生が実施。指導した児童のタイムが縮小し児童の自己肯定感が向上。

本校生徒会役員が、台風21号で甚大な被害を受けた本県における災害復旧に役立ててもらうことを目的に、文化祭の売り上げを県に寄付。知事より感謝状が贈呈。

次年度以降、地域への貢献や地域との連携を通して、生徒の社会性の向上につなげていきたいと考えている。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	授業力向上について、81%と高い現状値を示しており評価できる。目標値の向上を目指すことは良いことではあるが、一定以上の向上が難しい目標値もある。その点を勘案して目標値の再考を図ればどうか。
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	学校関係者評価委員会の指摘を受け、特に授業満足度を目標値とすることについて再考するものの、授業の質的向上を図ることが、生徒の学力向上に不可欠であることを踏まえ、授業力向上に係る取組を継続して推進していく。
学校運営についての改善策	教職員一人ひとりの指導力をより高めることができるよう、「チーム学校」に係る体制構築を一層推進し、「支え合い、助け合い、補い合う」同僚性の高い、働きやすい職場の構築に努めていく。